



令和6年10月9日水・10日木
秋の高山祭

記憶に残る秋の祭典

二次元コードを読み込むと、詳しい屋台の説明ページにアクセスします。

1 神楽台 かぐらたい

金の一對の鳳凰杵を飾る大太鼓が、ひときき目を引く、11台の中で唯一屋根の無い屋台です。五人の楽人を乗せ、神楽を奏でて屋台行列を先導しながら祭の始まりを告げます。

2 布袋台 ほていたい

八幡祭でからくり奉納を披露する屋台です。2体の唐子が綾と呼ばれるブランコを渡って布袋様に飛び移る離れ業が見所です。

3 金鳳台 きんぼうたい

武具をまとった神功皇后と幼い応神天皇を抱いた武内宿禰の上段の飾り人形が目印。屋台の創建年代は古く、初期の屋台の行まいが偲べれます。

4 大八台 だいぱちたい

この屋台の目印は黒塗り金具付きの御所車。車輪は直径1.56メートルで台名の由来とされます。屋台囃子「大八崩し」は、この組の「大八曲」を編曲したものです。

5 鳩峯車 きゅうほうしゃ

屋台の中でも異彩を放つ四方の豪華な綴錦が自慢。前面の雲龍、そして側面の明人遊苑図と中国の人物を描いた明古渡りの見送り幕が見所です。

6 神馬台 じんまたい

上段を飾る白馬と烏帽子姿の白丁人形が目を引きます。また、中段の胸幕には迫力のある般若面が刺繍され、鋭いにらみを利かせています。

7 仙人台 せんじんたい

全屋台の中で唯一の唐破風屋根が特徴です。祭神として祀られた白髭の仙人人形と、棟の両端に載る極彩色の剣巻巻は存在感があります。

8 行神台 ぎょうしんたい

上段の飾り人形は、この地にゆかりがあるとされる役の行者を祀ったもので、樺材の台輪は木目が美しいです。赤い幕や白い房などコントラストが美しい屋台です。

9 宝珠台 ほうじゅたい

別名亀屋台と呼ばれるように棟飾りには、雌雄の大亀を載せ、台名に由来する宝珠が輝きます。中段の欄間は極彩色の芙蓉の彫刻が見所です。

10 豊明台 ほうめいたい

台名は応神天皇の豊明宮にちなんで、美しい装飾が施されています。切妻破風の屋根に大鳳凰、躍動感溢れる獅子と牡丹の彫刻が見所です。

11 鳳凰台 ほうおうたい

屋台屈指の気品と讃えられる鳳凰台。中でも下段の谷越獅子は名工谷口与鹿と弟子・浅井一之の作で高山祭の屋台彫刻として最大です。

11台の屋台を中心に、秋を彩る五つの伝統行事。

お願い：屋台は貴重な文化財です。大切にしましょう。屋台には絶対手をふれないようにしましょう。

飛騨高山観光公式サイト
秋の高山祭の紹介はこちら



側溝には「ふた」がない所や段差がありますので、落ちないように特に宵祭の際にはご注意ください。

※秋の高山祭の開催場所では、墜落など危険防止のため、無人航空機（ドローンなど）による飛行は絶対に行わないようにお願いいたします。
※祭行事中止の場合、「神楽台」「金鳳台」「宝珠台」「鳳凰台」の4台の屋台は高山祭屋台会館（入場料必要）でご覧いただけます。なお、その他の屋台は各屋台蔵での待機となります。

祭行事の見どころ



屋台曳き揃え
9日・10日も布袋台は櫻山八幡宮境内に、他の10台の屋台は表参道に曳き揃えられます。国の重要有形民俗文化財である屋台が、目の前でじっくり鑑賞できます。飛騨匠の技である彫刻や豪華な見送り幕や飾り人形など、伝統技術の真髄を間近でご覧いただけます。



からくり奉納
八幡祭唯一の布袋台によるからくり奉納は、9日・10日も1日2回ずつ、櫻山八幡宮の境内で行われます。2体の唐子が布袋様の肩に飛び移る離れ業と、布袋様の軍配からのぼり旗が現れる演出は必見です。外からは見えない綱方達の熟練された綱捌きをご堪能いただけます。
※混雑の状況により、からくり奉納開始前に櫻山八幡宮境内への入場を制限することがあります。



屋台曳き廻し
秋の高山祭の特別な行事である屋台曳き廻しは、9日の午後1時頃から櫻山八幡宮の表参道を出発します。毎年登場する神楽台と鳳凰台に加え、今年は豊明台と神馬台が町を巡り、貴重な屋台を実際に動かすことで、その構造の緻密さや、計算された動きの美しさをご堪能できます。



御神幸(祭行列)
お囃子や獅子舞に先導され、闘鶏楽や袴姿の警固など、伝統の装束をまとった総勢数百名の大行列が、歴史絵巻さながらに現代によみがえります。行列は9日午後1時に櫻山八幡宮を出発し、町を一巡。10日は午前1時に再び櫻山八幡宮を出発し、披露しながら御旅所経由で櫻山八幡宮に戻ります。



宵祭
9日の夕方の宵祭では、昼と異なる高山祭の魅力に出会えます。陽が落ちると各屋台に約100個もの提灯が灯され、町をゆっくり巡り、そして曳き別れ歌「高い山」を歌いながら各屋台蔵へ戻ります。夜景を背景に浮かぶ幻想的な光景は、言葉にならない感動を心に刻みます。